

本庄駅北口周辺整備に向けた市民ワークショップ（第2回）

日 時：2020年1月26日（日）10:00～12:00
場 所：本庄市役所 6階大会議室
出席者：28名
テーマ：本庄駅北口周辺の未来と方向性を描こう！！

内容

1. 開会挨拶
2. 議事
 - ・前回振り返り、写真イベント中間報告、データ説明
 - ・アイスブレイク
 - ・グループワーク、発表
3. 総括・閉会あいさつ

会議風景



各グループ発表内容

A班

付箋が少ないのは、全体で道の成り立ちなど歴史的な話を楽しみ過ぎたため。この地区に「十字路が少ない」理由がわかった。旧中山道にT字路やクランクしている道が多いのは、外敵に攻められた際、地元の人は道がわかるが、外敵はスムーズに通れないようにしたという面白い歴史がある。

A班は、その場所を歩いてもらうという目線だけで話し合いをした。高校生も基本的には徒歩だと思うので、その目線で考えている。「歩きメイン」とあるが、私自身は赤い枠の真ん中あたりに住んでおり、基本的には徒歩か自転車です。車は持たないようにしているが、何も不便していない。

「駅前に何が欲しいか」という話題では、「駅前でコーヒーが飲める場所が欲しい」という意見があった。私も友達が本庄に来た際に、18時以降にコーヒーが飲める場所がなくて困った記憶が何度もある。また、「本屋が欲しい」という意見もあり、本を読みながらコーヒーが飲める場所が欲しいとのことだった。その他に欲しい施設として「サウナ」「温浴施設」が挙げられた。例えば熊谷の「おふろカフェ」は電源やWi-Fiがあり、お風呂を楽しめて食事もできる。私はそこにパソコンを持ちこんで仕事をしていたが、勉強している学生も意外といた。「おふろカフェ」までいかなくとも、この界限で「お風呂に入れる」「サウナに入れる」場所があれば、周辺を歩いて汗をかけた場合に



お風呂へ入って帰ることができる。また、「側溝の蓋が外れていて歩行者が危ない」「車通りが多くて危ない箇所がある」という話も出ている。「車がないと本庄では暮らせない」と思われているかもしれないが、そんなことはない場所があるという部分も含め、歩行者目線でまちづくりをすることも面白いのではないかな。

B班

B班では「歩いて楽しめ、若者の滞留時間を増やすことが大事」だと捉えた。現在のはにぼんプラザや本庄駅は、学生や若者がもっと自由に、手軽に使えると良いのではないかな。また、駅近くのエリアの商店街は、シャッターが閉まり店が無くなってしまっているが、商店をもっと活性化していけば、本庄に住んでいる人も住んでいない人も来やすく、買い物のために歩きやすい面に繋がると思う。

また、はにぼんプラザや駅、煉瓦倉庫など、点となる主要施設はあるが、「どう使ってよいかわからない」という意見が出た。施設を使いたい人もおり、拠点となる施設になっているが、どう使ってよいかわからないという部分がある。使い方を提示する仕組みや、やって良いこと・制限等を分かりやすく打ち出していくことも必要ではないかな。

また、駅前エリアは「歩いて暮らすエリア」ではないかな、ということで、車社会ではあるがこのエリアは「歩いて暮らす」「歩いて回る場所」「歩いて楽しめる」場所だというPR、知ってもらうことが必要。一方で、ただ歩くことは難しい。例えば、歩いて「こういう個人店がある」と知ってもらい、食べ歩きなどをしてもらうことによって、実際に「歩いて楽しむ実感」を得られるようなイベント的なものが必要ではないかな。



C班

C班で多く意見が出たのは駅前広場で、「時間をつぶせる場所がない」「今のままでなくもう少し整備した方が良い」という話だった。また、全体的に見て北口周辺に大きな公園がないという話、道路ではこの箇所を通れるようにしたほうが良いということ、また、ビバモールの駐車場を利用することで歩く人を作れたら良い、という話もあった。その中で「三交通りの扱いが半端」という意見があり、歩くには非常に良い場所だが車が通れないというように、扱いがもったいないという話が出た。

「三交通りの扱いが半端」という意見を受けてC班で考えた点だが、まずこのエリアは郵便局や商業施設、病院といった生活インフラが集中している。全体として全部をやろうとするとピンボケするという話もあり、また、これから人口が減っていく中で、まちづくりに投資し、回収できる所は圧倒的に少ない。だとするならば、投資場所をピンポイントで絞り、西と東で分けて切り離せないか考えた。中心市街地では圧倒的に高齢者人口が増えているため、そういう人たちが生活しやすくするため、東側は車で移動できるエリアと設定する。西側には歩くのに適した三交通りがあり、おいしいお店が点在している。そういう魅力を大切にしていきたい。この考えであれば、東側は官がまちなかに大きな投資をして、大きな広場や公園を作るという位置付けができる。東西をパブリックとプライベートで分けて、プライベートな



本庄駅北口周辺整備に向けた市民ワークショップ（第2回）

人たち（民）がそれぞれやりたいことをできるようにしてあげる仕掛けを行政が作るべき。例えば、都市再生整備計画地区に指定し、その通りの中で商店の人たちが店先にカフェを出せるといった状況を作ることができる。そういう環境を作ることができたら良いと我々は考えている。

また、学生らは休日、はにぽんプラザで勉強しているが、お昼や休憩がてらに食事が取れる店や、体を動かせる公園が少ないと感じている。私の母が高校生の時は駅前に喫茶店があったらしく、よくその店を利用していたとのことだが、今は学校帰りや電車を降りてすぐの場所に何もないため、そういった場所がほしい。若者の意見を踏まえたまちづくりを進めていければ、と思う。

D班

D班では3つの改善点・問題点が出た。

駅周辺で一番多く出た意見は、「広い公園がない」「小さい子が外で遊べるような場所がない」ことだった。個人的には、南口周辺は建物が多く入り組んでいるため、1つの広い場所に芝生や緑を設置することで、周囲の空気や気分も良くなるのではないかと、思っている。2点目は道路・交通で、はにぽんプラザ近くの踏切がよく混雑するという意見だった。この箇所は歩道橋設置ができないのか、という話題も出たが、「周辺の居酒屋等の問題でできないらしい」ということだった。3点目として、駅周辺にわ

かりやすい待合場所やレストラン等があれば時間を潰すことができ、駅を出てすぐに映画館等があると、より駅になじみが出ると思う。また、祭りの帰りに休んでいけるような、便利な施設があると良いのではないかと。

E班

「本庄駅北口周辺の未来と方向性」という面に関して、南と北を区別すべきなのではないかと考えた。例えば、若者を集めたいのであれば、商業施設やカフェを増やせば良いと思ったが、班で話していく中で、学生の私が知らないようなところや、駅から離れた場所の話が多く出ており、若者向けのまちでは「多くの人にとって住みやすいまち」ではなくなってしまふかもしれない。

また、駅の南と北が一緒では、本庄市が単調になってしまうと感じた。

単に「少し発展しているまち」「道路がきれい」ということではなく、南と北の良さを区別することが大切で、南では昔ながらのまちなみや古民家があるが、北口はこれから発展していく場所となっていければ良いと思う。

そのなかで人の流れや滞留空間のあり方についての改善面として、先日ビバモールが開業したことにより便利にはなったが、車が多くなってしまい、動線部分で混雑や危険が生じているため管理が必要だと思う。また、私たち東高生が通る道路は歩道が非常に狭くなっており、ここに関しても改善が必要だと感じている。銀座通りやビバモール周辺は商業施設へのアクセスが非常に細い道路であるため、ここも改善の必要がある。

また、本庄駅周辺の駐車場に関して、「本庄駅が最寄駅」というくらい伊勢崎市民が多く来ており、駐車場はお金を落としてもらえる場所とすれば良いと思った。ただ、本庄駅の駐車場利用者に駐車場利用だけでなく、例えばビバホームの跡地にセントラルパークのような公園や商業施設を設置することによって、駐車場だけでなくそこにもお金を使ってもらえるようになり、賑わいが広がるのではないかと。そしてそういう場でも、私たち高校生が活躍できる場として使っていければ、地域交流も含めて、多くの人にとって住みやすい場所になるのではないかと。



講評

大日本C 青木

A班・B班は「歩きをメインにした市街地形成」がテーマに挙がってきたと思う。その中でもB班は使い方の提案が必要ということで、そこで私が思い出したのは、大洗の事例。大洗はアニメの聖地になっており、実際にアニメで「萌えおこし」という形の町おこしがあるが、元々の観光インフラがないと、一時的に盛り上がりても長続きしないという話だった。それと同じことが言えて、やはりイベント的な物でやっていくのはなかなか難しいため、来訪者の支援と生活者の支援のなかで上手くミックスしていくことが必要ではないか、と思った。そういった中で、北口に関しては歩いて暮らす。細い道路が多いということで、全部を拡幅して車が通れるようにする場所ではないため、そういう点で歩いて暮らせるところ、また由緒正しい歴史的な物もあるため、それを活かして皆に知ってもらえる工夫が必要だと感じた。

C班等については駅前広場に関してで、こういう場所はやはり新しい機能を持ってくるということになる。これは市街地を歩けるということと、A班からカフェや本屋という意見が出たが、そういう機能を駅前に置いて使い分けることも必要ではないか、ということが見えた。

D班では駅周辺、広場や遊ぶ場所ということで、駅前の使い方を変えるという点と、道路としてはその他の場所との重要な施設とのつながりの話や、踏切の安全性の話が出た。

E班に関しては、南口と北口の使い分けとして機能分担という話が出てきた。そういった中で駅周辺をどうしていくのか、というところで皆さんも色々ご意見はあると思う。道路や公共空間という部分で今回は議論したが、そのなかで道路網をどうしていくのか、また施設をどうするか、示唆に富んだ意見だったと思う。

次回については、これを踏まえて将来像について、どういうまちづくりをしていくのか、皆さんにテーマ設定をしていただくような会を考えている。今回と同じようにグループワークをしながら、まちづくりを一步進めた形でどういう風にしていくのか、議論していきたいと思う。

吉田市長

最後の発表を全部聞かせていただいた。率直な感想を言えば、参加者一人一人がどんなことを考えているのかを聞いてみたいと思った。それぞれ思いがあると思う。

今回はまた一步進めて、「どんなまちにしたいか」という話し合いになるということで、こういう物の中から方向性を出すことはとても難しいことではないかと思いつつ、皆さんがある意味おもちゃ箱をひっくり返すように、色々なものを出していただくところからしか何事も始まらないと思っている。今日の話聞いていて、エリアという言葉が心に残った。

ただまちを整備するだけではピンボケになるが、エリアを区切って整理することがひとつのヒントになるのではないかと感じた。最後の高校生の発表で、若者や高齢者など様々な世代がいるため、「私はこの部分に満足している」「私はこの部分が好きだ」など、それぞれの世代にとって光るものが出てくると、魅力的な市になるのではないかと。私自身も非常に勉強になった。次回も是非参加できればと思う。











